

～総務省からのお知らせ～

【主権者教育】優良事例普及推進事業を募集しています

「主権者教育」優良事例普及推進事業では、都道府県・市区町村選挙管理委員会が実施する主権者の発達段階に応じた取組、部局横断的・広域的・組織横断的な取組のほか、工夫をこらした独自の取組などを募集しています。

採択した事業については、事業経費を総務省が負担するとともに、その手法や効果を、全国の選挙管理委員会等に周知・普及することで、全国的な主権者教育の充実につながります。主権者教育推進のため、募集要領をご確認のうえ、積極的にご応募ください。

【参考URL】

https://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo_s/news/sonota/shukenshakyoiuku/suishinjigyou.html

～若者向け啓発活動紹介～

遊佐町少年議会(山形県遊佐町教育委員会)

山形県遊佐町は山形県と秋田県の県境にあり、人口およそ13,000人の小さな町です。町では、平成15年から遊佐町在住の中学生及び遊佐町に通学する高校生を対象に「遊佐町少年町長・少年議員公選事業」(以降少年議会とする)を始めました。

少年議会では立候補者が定員を超えた場合は選挙となります。20期目の節目となった今年度は計11名の定員に対し過去最多の18名の立候補がありました。選挙の際には、選挙公報紙が作成され、国政選挙等にも使用される投票箱を使用して投票が行われます。

少年議会の活動としては政策を立案し実現することがあげられます。また、町へは一般質問として問題提起や若者の要望を直接町の執行部へ伝えることができます。政策で出来たものは町のイメージキャラクターを始め様々なものがあり、一般質問を通して防雪柵や街路灯の設置等が実現しました。民主主義を授業だけではなく、実際に経験できる貴重な機会となります。これからも若者と大人の相互教育の場として、邁進してまいります。



▲令和3年度 第三回少年議会



◀遊佐町イメージキャラクター「米ちゃん」第2期少年議会において募集・決定しました

～明るい選挙推進協会からのお知らせ～

【情報誌VotersNo.69】を発行します

今号の特集は「社会の分極化と分断に政党政治はどう立ち向かうのか」です。近年よく耳にするようになった「社会の分断」や「分極化」ですが、報道等で報じられているフランスやアメリカ、イギリス、ドイツ各国の実状から、分断に向かわせた要因や背景などを明らかにし、それらを修復するため政治に期待されることは何か、などについて、同志社大学の吉田徹先生、西南学院大学の尾上修悟先生、慶應義塾大学の岡山裕先生、名古屋大学大学院の近藤康史先生、神戸大学大学院の安井宏樹先生、千葉大学大学院の水島治郎先生にご執筆いただきました。

連載の「選挙管理実務あれこれ」は、市区町村選管事務局における実務の適正執行について、「情報フラッシュ」では7月の第26回参院選での啓発活動などを紹介しています。ほか、広島県明るい選挙推進協議会の浅井幹夫会長による明推協リレーコラム、当協会の佐々木毅会長のコラムも掲載しています。

次号は「参院選をふりかえる(仮題)」を特集とし、10月下旬に発行する予定です。

【問合せ先】(公財)明るい選挙推進協会 Tel: 03-6380-9891

～主権者教育アドバイザー紹介～

令和4年7月8日(金)に愛知県立知立東高等学校にて講演しました!

主権者教育アドバイザー 橋本 康弘(福井大学教育学部教授)

令和4年7月8日に愛知県立知立東高等学校で高校1年生を対象にした主権者教育を行いました。同校では、主権者教育に熱心に取り組んでおり、今年度の取組は、知立市との連携事業となっています。同日の授業では、知立市の抱える問題とその解決の在り方について考えることを目標に知立市役所の職員から、その問題の概要の説明を受け、その後、生徒は、自身の感想や意見を述べていました。同日の「午前の部」で、筆者は「地域課題の調べ方」をテーマに講義をしました。筆者が以前大学院生と取り組んだ「買い物難民問題」を事例にして、その際行った地域の人に対するインタビュー調査についてその方法と具体について説明しました。当日はコロナ感染予防の観点から、ハイブリッド型での授業実践となりました。当日の話が生徒の活動のお役に立てれば幸いです。

